

組報

真宗おおだ東

第5号
2017.1.1発行
発行所
真宗大田東組
組報編集部

知恩報徳

組長 松村 淳真
(専徳寺住職)

伝灯奉告法要の円成に協力すべしという趣旨で二期目の任を負うことになりました。引き続きよろしくお願ひします。

さて、昨今注目の話題は米大統領選に尽きるかもしれません。

この選挙、多くの人たちも違和感を抱いたと思われるが、圧倒的な情報量を持つ米国の巨大メディアがことごとく読み違えたこと。追随した日本の報道も横並びで何か暗い時代を連想させてしまいました。

次期大統領が米国一國主義を広言しているのに株高が続く、市場が喜んでいても不可思議の一つ。経済原則こそ仏教の縁起思想に似た原理に依拠して支え合って機能しているはずですが、米国の巨大市場は腐っても鯛なのか、それに群がるハイエナの如き心理が

はたらいているのでしょうか。

このたびは巨大な知的集団も共同幻想によつて間違ふことをわたし達に教えてくれました。組織に依らず自在に考えることが肝心と示唆しているのでしょうか。まあ、今年の勝ち組は木村太郎とピコ太郎でしょう。

翻つて、み教えを仰ぎ念仏申しながら日暮しするわたし達にとつて「正信偈」の一節々は磨き抜かれたことばですが、親鸞聖人は偈前のご文の中に「恩を知りて徳を報ず」という一語をのこしてくださいました。親や師の恩、友の恩それらの恩を辿れば仏恩から届いてきたことに思い至ると。「仏恩の深遠なることを信知して」帰命無量壽如来 南無不可思議光と謳いあげられました。無明長夜を生きる衆生済度のために行を治め、本願名号のはたらきが恩も徳も仏の側から届けられたといた、だからこそ、正信偈が「恩徳讃」とも称えられる所以でありましょう。

みなさま、よい新年をお迎えになりますように。



大田東組執行部の皆さん

副組長 教区委員 組長 副組長 副組長
松浦英篤 福間信隆 松村淳真 菅本了道 菅原 憲

- 【組長】 松村 淳真 (専徳寺)
- 【副組長】 菅本 了道 (立善寺)
- 松浦 英篤 (真浄寺)
- 菅原 憲 (正蔵坊)
- 西原 由実 (浄善寺)
- 和田 徳 (立善寺門徒)
- 【教区会議員】 福間 信隆 (極楽寺)
- 三瓶 暁 (徳善寺)
- 小倉 一義 (善性寺門徒)
- 菅原 敦樹 (専念寺)
- 小笠原 芳秀 (法専寺)
- 大草 顕信 (常見寺)
- 福間 正道 (信楽寺)
- 熊野 俊昭 (浄教寺)
- 大草 一憲 (照善寺)
- 【協議員】
- 【教区委員】
- 【監事】

大田東組 新組織編成

教区委員(事務局長) 福間 信隆

2009年、浄土真宗本願寺派の定期宗会において「教区編成等基本問題調整委員規定宗則案」が議決され、それを受け大田市内の旧三瓶組・大田組・石東組の三組が合併する方向で話し合わせ、2012年から「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」が実現できるようにと松村組長のもと、松浦事務局長のリーダーシップによって進められてまいりました。

合併当初は、あまりにも大きな組織となり(2016年4月1日現在42ヶ寺・山陰教区教務所発行寺院名簿から)、それまで進めてきた小さな単位での細かい部分での配慮ができた運営とは違い、全体への組の方針や意向が伝わりにくくなったり、寺院形態の相違により一体感を醸成しにくくなることがあり、皆さんからは「合併し大きな組織になったのだから、大きくなったからこそできる運営をもっとして欲しい。」など厳しいお言葉が出るなど、歯車がなかなか噛み合わない部分がありました。執行部の方々の尽力によって一期4年が終了いたしました。

この間、新しい組織となった大田東組では社会(の問題・課題)とかかわっていくお寺のあり方や念仏者のあり方を頭に置きながら「ひらかれたお寺」をめざして取り組んでまいりました。

そのための基礎となるものとして、組が中心となり、地域・寺院が連携して行うために念仏者の養成(門信徒のみならず、僧侶も含め、み教えを学び、社会に伝え拡げていく念仏者の層を厚くする。)

・組で制定した重点プロジェクト「きまご経語を伝えよう」の推進

・念仏者からみ教えを社会に広めていくための組織体制の確認

など項目を挙げて実践に結びつけてまいりました。

その成果は、組織体としての基盤が確立したことや小さなブロックでは出来なかつた内容の研修や広い範囲での意見の聴衆など多くのメリットもあり、新体制の組織としても踏襲していききたいと考えているところですが、4年間の反省・課題も多く指摘されました。その課題であります。

- ・「組で行うべき活動」「地域で行う活動」「お寺の単位で行うべき活動」の線引きが明確ではなく、活動自体が衰退しているのではない。
- ・組実践運動事務局の方針が明確に示されていない。
- ・部門等へ方針や課題の共有ができていない。

さらに厳しい意見としては

- ・ 組の活動へまったく無関心な寺院や僧侶があっても、それが公然とまかり通ってしまっている。

・ 中国のことわざに「有縁千里来相会 対面不相識」という言葉がありますが、意味は、言わずものがな「縁があれば千里の道を会いに来るも、縁がなければ会っていてもすれ違うまま」といわれるように、まさに今の世の中をそのまま表す言葉であり、強いて言えばこの大田東組もそのような状態ではないかと私の頭をよぎったのです。

さらに、このような状況は、誰かの言葉ではありませんが、「寺は風景の一部でしかない」という言葉。形はあれども中身がないというところで、寺に関係している一人として、「捨てる事はできない」「見過ごすことができない」問題と考え、新しい組織編成にあたり事務局として考えていきたいことは、まず全寺院・全僧侶・全門信徒が諸問題・諸課題に関わり、お寺のあり方や、命の尊さに目覚め、一人一人がそれぞれの違いを尊重し、念仏者のあり方を指すために「チーム大田東」とスローガンをあげ、地域の人が訪れやすい新しい時代に合ったお寺の環境をつくることについて新たなコミュニケーションの場づくりを目指していきたいと考えます。

その上で本山の目指す「御同朋の社会への

大田東組 組織図

目標：御同朋の社会をめざす運動（実践運動）
～「開かれたお寺」を目指して～
社会(の問題・課題)とかかわっていくお寺のあり方、念仏者のあり方をめざして

↑ 実践・検証

大田東組				
組長：副組長：教区会議員：教区委員(事務局長)：監事：協議員				
総務	同朋社会		寺院活動	
総務部	研修部	社会：広報部	伝道教化部	ご縁づくり部
部会長	部会長	部会長	部会長	部会長
部員	部員	部員	部員	部員
担当副組長	担当副組長		担当副組長	

↓ 実践・検証・検討

社 会

命の尊さにめざめる一人ひとりが、それぞれのちがいを尊重し、ともに輝くことのできる社会をめざす。

僧侶・門信徒ともに親鸞聖人の「み教え」に学び、全員聞法・全員伝道による組織づくり

み教えをよりどころとして、社会とかかわり、社会に開かれたお寺のあり方を模索・検討

運動（実践運動）」を模索・検討ができる体制作りをと考えました。

寺院活動の基本は、風景の一部とはいえ、そこにお寺が「在る」ことによって存在するものです。あるからこそ地域の方々の思いや願いを直接肌で感じ合い、ともに体を動かし汗を流し、念仏しあひながらお寺を支えて頂くのは門信徒であることは言うまでもないことではありますが、お寺という組織体としての法務を推進していく場合、その中心となりリーダーシップを発揮すべきは僧侶側であり、今まで培われてきた形をさらに強固な体制へと確立することが必要と考えました。

法務の内容を総務・同朋社会・寺院活動と大きく3つに分け、それぞれに副組長を当てさせていただきました。

さらに同朋社会を研修部・社会広報部。寺院活動を伝道教化部・ご縁づくり部と細分化し、それぞれに部長を置き、担当部署において、それぞれの力が発揮できるようにし、さらに縦の連携がとれるようにいたしました。

その上で僧侶全員の方にいずれかの部署に所属していただき「一人一役」を担って頂くことよって、一人一人がことに関わり、同一の問題や課題を共有しながら運営していくことにし、その組織の土台を支えていただくために、門信徒にも部員として所属して頂き、社会現象の変容をいち早く敏感に感じ取られる位置にある門信徒の皆さんに、そこにある諸問題、諸課題の生の声を出していただくようにしたのが今回の再編成での特徴と考えています。

います。

以上のような考えの基に、浄土真宗本願寺派という大きな組織の動きに対して余儀なくされる体制ではありませんが、本山からだされる基本計画に置かれていることは尊重しながら、従来から言われている「伝道するのが僧侶。聞法するのが門信徒」といった概念を打ち破って、大田東組の皆さん全員で聞法し、皆さんで伝道し、自らが教えを聞いて、その教えに生きる門信徒、僧侶を目指す。

また、地域の人が訪れやすい寺院環境作りを僧侶、門信徒が目指し、お寺を中心とした時代に合った大田東組独自の体制ややり方、考え方をつくりだし、これからのお寺のあり方を問うていく新たな4年間になればと考えます。

実践運動とは

○本願念仏のみ教えを広めてゆくこと

○み教えに基づいた、念仏者の「社会とかかわり」や「社会参加の活動（阿弥陀仏の慈悲に基づいた実践）」

ということであり、この計画や方針に沿ってスムーズに運営できるように「開かれたお寺」をスローガンに、私たちのいただいている「本願念仏のみ教え」をよりどころとして、私自身のありようを問い、そして念仏者として、社会の矛盾や課題を問い続けながら、真の「御同朋の社会」が実現できるよう運動を推進し、実践して行くという方向で進めてまいります。

各部の取り組みから

仏教婦人連盟

大田東組仏教婦人会連盟事業を終えて

委員長 大迫五十鈴

大田東組仏教婦人連盟の会員に対する今年度事業は、ほとんど終わりました。

6月11日、立善寺様を会場として総会がありました。8月24日、備後教区担当の第60回中・四国地区仏教婦人会大会があり、大田東組からは17名の参加でした。そして、10月8日、あすてらすを会場に研修会がありました。その時、ご講師のご法話の後、会場の皆さんが拍手されたことに気付かれた方はおありだったでしょうか。拍手は激励、祝意などを表すために手を打つことです。ご法話を聴聞した時には拍手をしないということを皆様よくご存知のことと思います。では、なぜご法話を聴聞した時は拍手をしないのでしょうか。ご法話というのは、親鸞聖人のみ教えで、そのみ教えをお取り次ぎして下さいますのが講師です。阿弥陀様からいただくお念仏のお言葉を、講師がお取り次ぎして下さっているのです。この研修会終了後の役員反省会で、「ご法話の始まる前に、聴聞した後は拍手をしない。お礼はお念仏で。」ということ伝えてまいりました。この意も出ました。こうした作法がお寺や家庭で受け継がれていないということだと思います。広く周知して、拍手ではなくお念仏をさせていたいただきたい、とお伝えしていかなければと思うところでした。

総代会

総代研修会に参加して

総代会会長 和田 徳

去る10月13日、江津市蓮敬寺で行なわれた平成28年度山陰教区門徒総代会石見地区研修会に、142名が参加しました。

講師は備後教区三次組・専法寺副住職・梵大英師、テーマは『地域とともに生きる（活きる）お寺』と地域と寺院とのつながりを大切にしました。

梵先生はイベントプロデューサー等の仕事を経て現在三次市観光協会理事。三次市の地域・経済・社会の活性化に深くかわり、実績をあげておられます。広島東洋カープ梵英心選手の実兄でもあり、またサーフィンが得意なスポーツマンです。

「僧侶は自坊で、ご門徒がお参りされるのを待つだけではなく、外へ出て行ってご門徒と親交を深め、布教すべきだ」というのが持論のようでした。

門徒は三次市内を中心に350軒、内、広島市内に150軒程度。先日もこの方達を対象に広島別院で法要を行ない、50名の方がお参りに来られ、成果があったと喜んでおられました。温泉津地区のお寺で行なわれている「離郷門徒の会」と似たやり方でしょうか。

講師は年齢が30歳代と若く、活気あふれる方で、このエネルギーを私自身にも取り入れたいと思いました。

合掌

門徒推進員

第2回連続研修に向けて

会長 齊藤 寛

門徒推進員は、組における連続研修を経て中央教修を修了した者の資格を名乗るものです。私は私自信がこの門徒推進員を称することが「おかしい」と感じ、中央教修受講後、10数年申請致しませんでした。旧大田組において門徒推進員協議会が発足し協議会には参加し、連研のスタッフとして係わり、同じように感じた方々から中央教習において門徒推進員を称するのは「立場」でなく「自覚」だと論されたことを聞き、その「自覚」と、私だけが「ただ」ではない、「共に歩む道」なのだと思え受け止めて頂き、門徒推進員の「自覚」の証を申請し頂きました。そのようなおぼつかない私が本年度、組における門徒推進員協議会の責任を担う立場となりました。次なる大田東組第2回連研の開催を通し、感動をもって「そのおいわれ」を自分自身の事として頂く事の出来る中央教修に、多くの門徒の参加を頂くため準備をして参ります。

この組における連研の開催は、お世話をする門徒推進員自身が更に深く味わわせて頂く事の出来る事業でもあります。次年度に開催予定の第2回大田東組連研に御寺院方の絶大な協力と多くの御同行のご参加、ご協力を偏に願うばかりでございます。

少年連盟

夏休み恒例のキッズサンガ・サマースクールを開催!

担当 大草 顕信

去る、7月18日、恒例のキッズサンガ・サマースクールを、大田東組共催のもと、子ども・スタッフ総勢約110名の参加で開催しました。

日中は、ご法話を聞いたたり、ゲーム大会、追跡ハイキングなど、夕べのつどいでは、キャンドルサービスや花火等々を行いました。

子どもたちは、慣れない正座やおつとめもがんばり、日常ではあまり聞かないご法話にも耳を傾けてくれました。班活動では、初めてのお友達ともすぐに仲良くなり、チームワークや、周りのお友達を思いやる成長が見えました。

食事では、「いち」をいただくことの意味を学んだら、スタッフ共々、楽しく意義のある1日を過ごすことが出来ました。

微力ながらも仏の子を育てる一環として、日曜学校や、サマースクールをこれからも継続していけたらと思っております。



仏教壮年連盟

念仏者の「社会参加」とは……

会長 下迫 紀弘

昨秋、組「仏壮」が、総会・研修会で、国の「安保法制」に反対と抗議を決議したら、たちまち僧侶からクレームがつけました。この時ぼくは、僧侶の門徒に金を出させても、口は出させん体質を丸出しした、と感じたのです。

僧侶のクレームは、「社会貢献」つまり、治安の維持はするが、「社会参加」つまり、社会問題への積極的な関与はしない、との表明なんだから。

しかし、宗派（お寺の集団）は、過去の戦争翼賛の罪科を反省し、既に50余年前「社会参加」の大切を公式に認めているのです。だから、この僧侶からのクレームこそたわごとだ、とぼくは言いたいです。

では、なぜ今、念仏者の「社会参加」が大切か、です。その訳の1つは、宗祖・親鸞の「本願念仏の教え」は、つながり（社会）の中で生きる人びとの苦悩を等しく救済することが目当てだから。2つは、現代人の苦悩の原因が、社会問題（社会の矛盾や仕組み）にあるからです。

それにしても、僧侶が「仏壮」に「社会参加」はいけない、とおおつびらに言えるのは、宗派が、お寺から「本願念仏の教え」を意図的に消したからだ、とぼくは感じます。

それなら、ぼくたち「仏壮」が、お寺に「本願念仏」という言葉を、急いで復活しなくてはなりません。言葉が戻ってくると、「仏壮」の担う「実践・運動」と言う文化も復興するからです。

社会広報部

「平和と人権のつどい」

—アーサー・ビナード講演会—

担当 菅原 憲

今回の「平和と人権のつどい」には、絵本作家・詩人のアーサー・ビナードさんをお招きしました。

まず最初に、日本の或る新聞の「北方四島帰属確認拘らず！」という記事に対してアーサーさんは熱く語りました。

拘るといふ言葉は、もともと些細なことにとらわれて必要以上に気にすることだ。

これは広辞苑にも記されている。つまり、50年以上前から日本政府が拘り続けてきたという「四島返還」というのはじつに些細なつまらないことであつたということを政府が表明したようなもの。日本国民も日本語に対して拘らなくなつてしまつた(?)のではないかと。

次に「駆けつけ警護」という、安保関連法で認められた独特の概念であるが、それはPKO活動など国連やNGO職員、及び他国の軍隊などが攻撃にさらされた時、自衛隊が駆けつけて実施する救援活動である。しかし、それは非常に矛盾した言葉である。駆けつける時には、すでに攻撃が始まつている状態だから、攻撃をしながら駆けつけなければならず、「駆けつけ攻撃」という表現が正しいのである。しかしそれは憲法違反になるので、政府はあくまで警護というやわらかな言葉にすり替えているのであると説明されました。皮肉なことにアメリカ人であるアーサーさんから、しっかりと日本人として日本語を理解し、言葉のまやかさに騙されたいと欲しいと訴えられました。



久手、波根、富山町の8つの寺院を紹介します。



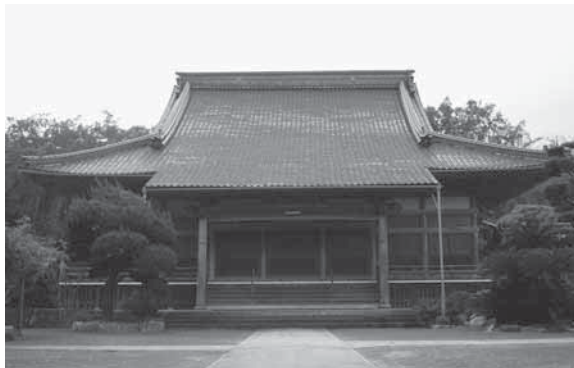
しょう せん じ
正 専 寺 (久手町刺鹿)

開基：釋休伝
現在の住職は第15世 森山成真



ごく らく じ
極 楽 寺 (久手町刺鹿)

開基：釋了恩
現在の住職は第14世 福間信隆



りゅう ぜん じ
立 善 寺 (波根町)

開基：松嶽院釋明恩
現在の住職は第17世 菅本了道



しょう りん じ
松 林 寺 (久手町波根西)

開基：釋休伝
現在の住職は第12世 林 正朗

石東一乗会

夏季佛教講座の 開催回数之差異は？

世話人 齊藤 寛

平成2年、教区報『さんいん』に掲載された「石東一乗会を顧みて」に仏教思想を根幹とした宗教教育の定期講座を開き、石東一円の文化向上を願って始められた。(中略)とあります。また初期世話人から「一乗会はあらめぎの会だ」と云う。田圃の荒おこしに例えたもので、一般の人々をこの講座により仏教への関心を誘いつつ深まって貰いたい。(中略)……また、かくれ念仏の旧蹟を巡った折、念仏衆の百余年の史実を思う時、一乗会の目前の盛衰に迷う事無く、聴聞を重ね、お手伝いをさせて頂く事をあらためて感じる。(中略)と結んでありました。

真宗の法義の立場は「唯信」であり「聴聞」につきるともお聞きかせ頂いています。世話人一同肅々この貴重な「聴聞」の場を止まることなく受け継いで参りたいと思うだけです。

石東一乗会のご寺院方によって昭和2年に設立されています。開催回

組内お寺めぐり



こう りん じ
高林寺 (富山町山中)

開基：釋願長
現在の住職は第14世 菅原俊軌



だい おん じ
大恩寺 (波根町)

開基：釋教傳
現在の住職は第14世 大石寛隆



せん ねん じ
専念寺 (富山町神原)

開基：釋願明
現在の住職は第19世 菅原敦樹



ふく せん じ
福泉寺 (富山町才坂)

開基：釋慶順
現在の住職は第18世 福谷美穂子

※次号は、三瓶地区の紹介です。



石東一乗会創設時の資料

数と年数に差異があります。夏季佛教講座は大正から始まり、改めて石東一乗会を昭和2年に設立したとの説があり、3日間開催、開催場所は異なり2人の講師の1年複数回説もあり、今となつては当時を知る方も証明する術もなく、数えられてきた回数積み重ねで本年を迎えています。今はただ次のご講師はどなたにと、既に来年の第99回の開催に向けて歩んでいます。

各寺院のご協力と御同行のご参加、ご支援を偏に願うばかりです。



記

★期 日 2017(平成29)年 4月2日(日)~3日(月) 1泊2日
 ★募集人員 165名 (定員になり次第、締め切ります。)
 ★参加費 40,000円 (本山への団体参拝懇志等を含みます。)
 ★申し込み 大田東組各寺院にお問い合わせの上、お申込みください。
 (定員になっている場合もあります。その節は何とかご容赦ください。)

★行程 (日程の概略) 《貸切バス(大型バス)を利用します》

1日目 4/2	朝6:20頃 大田(各地)発 — 宍道湖PA — (山陰・米子・中国・名神高速経由) — 京都南IC — 7:55 8:15 【昼食弁当積み込み】 12:50
	— 西本願寺「伝灯奉告法要」 — (名神高速経由) — 有馬温泉 泊【月光園遊月山荘】 13:10着 14:00 16:00頃 17:30頃 ☎(078)904-0366
2日目 4/3	(兵庫県の伝道拠点) 有馬温泉 — 神戸別院 参拝 — 沢の鶴資料館 — 8:30 9:15【参拝・見学】10:10 10:30【日本酒試飲】11:10
	(神戸の町並み・明石海峡大橋・大阪湾などを一望) — 神戸港ランチクルーズ「観光船コンチエルト」 — (中国・米子・山陰道経由) — 宍道湖PA = 大田(各地) 12:00出港(昼食:ランチクルーズ) 14:00入港 14:30出発 【夕・軽食弁当積み込み】 18:30 18:45 20:00頃

「伝灯奉告法要」は、宗祖親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」(法灯)を継承されたことを阿彌陀如来と親鸞聖人の御前に奉告するとともに、また、この法要を機縁として、本願念仏のみ教えが広く伝わることを願い、宗門内外によびかけて、多くの方に参拝していただくことを期してお勤めさせていただく法要です。
 このたび、大田東組でもこの法要に合わせて本願寺への団体参拝と、春だけなわの神戸・有馬温泉に宿泊する旅を企画いたしました。
 皆さんお誘い合わせの上、多数ご参拝・ご参加いただきますようご案内申し上げます。 称名

主 催：浄土真宗本願寺派 大田東組 / 旅行取扱：石見観光 大田営業所

★ お問い合わせは、大田東組各寺院または、
 大田東組 団参担当 真浄寺 松浦 英篤 【☎(090)4894-6551】まで。



「無我」という言葉がある。横山大観の有名な「無我」という絵があり、私はあの童児の表情と「無我」を重ねる程度であった。そんな私が、お釈迦さまの次のような教えに出遇わせていただいた。

「色等は無常なり、無常なるものは苦なり、苦なるものは我ではない。」

生まれて老いて死んでいく無常な私は私の意思でそうなるのではない。思うようにならないことは我ではない。無我であると。このようにお釈迦さまは仏教の原則を説かれた。自分で心臓を動かしたり止めたりできる人はいない。思いもしないのに顔のしわが増え頭は薄くなる。無我の不可思議のほたらきによってなっていると思うしかない。全てが我ではない不可思議のほたらきで生かされていることに気づいて生きていきなさいと、お釈迦さまはさとされた。その真逆に「我思う故に我あり」という言葉がある。有私の思想であり私も馴染んできた。しかし今、世相は有私の極まる混沌に深く病んでいるのではないか。(門徒顕)

編集後記

遅くなりましたが、大田東組報第5号を発行します。
 さらに良い組報を作るためにもぜひお読みいただき、皆様のご意見・ご要望をお聞かせいただければありがたいと思います。
 原稿をお寄せいただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。(竹)